

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年5月1日(2008.5.1)

【公開番号】特開2002-363055(P2002-363055A)

【公開日】平成14年12月18日(2002.12.18)

【出願番号】特願2001-171826(P2001-171826)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/00 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

A 6 1 K 8/19 (2006.01)

A 6 1 K 8/72 (2006.01)

A 6 1 K 8/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/48

A 6 1 K 7/00 B

A 6 1 K 7/00 J

A 6 1 K 7/00 U

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月11日(2008.3.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

使用時に、1) アルギン酸及び／又は水可溶性のその塩 0.5～20 重量%と 2) (ポリ) グリセリン及び／又は 25℃ 1 気圧で液体のポリエチレングリコール 10～80 重量%、3) カルシウムの塩及び 4) 水を含有するパック化粧料とするための多剤混合型パック化粧料であって、保存時の構成要素として、アルギン酸及び／又はその水可溶性塩を含む組成物とカルシウムの塩を含む組成物の 2 種の組成物を含有する多剤混合型パック化粧料。

【請求項 2】

(ポリ) グリセリンと 25℃ 1 気圧で液体のポリエチレングリコールとを 10：1～1：10 の重量比で含有することを特徴とする、請求項 1 に記載の多剤混合型パック化粧料。

【請求項 3】

更に、無機増粘剤を含有することを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の多剤混合型パック化粧料。

【請求項 4】

更に、(ポリ) グリセリン及び／又は 25℃ 1 気圧で液体のポリエチレングリコールと水とが保存時において実質的に混合していない形態であることを特徴とする、請求項 1～3 何れか 1 項に記載の多剤混合型パック化粧料。

【請求項 5】

エステティック用であることを特徴とする、請求項 1～4 何れか 1 項に記載の多剤混合型パック化粧料。

【請求項 6】

用時、アルギン酸及び／又はその水可溶性塩を含む組成物とカルシウムの塩を含む組成

物と第3の組成物としての水性組成物を混合してなることを特徴とする、請求項1～5何れか1項に記載の多剤混合型パック化粧品。

【請求項7】

水性組成物が水である、請求項6に記載の多剤混合型パック化粧品。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

一方、使用時に、1) アルギン酸及び／又は水可溶性のその塩0.5～20重量%と2) グリセリン及び／又は25℃1気圧で液体のポリエチレングリコール10～80重量%及び3) カルシウムの塩を含有するパック化粧品とするための多剤混合型パック化粧品であって、保存時の構成要素として、アルギン酸及び／又はその水可溶性塩を含む組成物とカルシウムの塩を含む組成物の2種の組成物を含有する多剤混合型パック化粧品は全く知られていない。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、この様な状況下為されたものであり、使用性と使用感に優れた、エスティック用のパック化粧料を提供することを課題とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【課題の解決手段】

本発明者らは、この様な状況に鑑みて、使用性と使用感に優れ、エスティック用のパック化粧料を求め、鋭意研究努力を重ねた結果、使用時に、1) アルギン酸及び／又は水可溶性のその塩0.5～20重量%と2) グリセリン及び／又は25℃1気圧で液体のポリエチレングリコール10～80重量%及び3) カルシウムの塩を含有するパック化粧品とするための多剤混合型パック化粧品であって、保存時の構成要素として、アルギン酸及び／又はその水可溶性塩を含む組成物とカルシウムの塩を含む組成物の2種の組成物を含有する多剤混合型パック化粧品にその様な特性を見出し、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は、以下に示す技術に関するものである。

(1) 使用時に、1) アルギン酸及び／又は水可溶性のその塩0.5～20重量%と2)

(ポリ)グリセリン及び／又は25℃1気圧で液体のポリエチレングリコール10～80重量%、3) カルシウムの塩及び4) 水を含有するパック化粧品とするための多剤混合型パック化粧品であって、保存時の構成要素として、アルギン酸及び／又はその水可溶性塩を含む組成物とカルシウムの塩を含む組成物の2種の組成物を含有する多剤混合型パック化粧品。

(2) (ポリ)グリセリンと25℃1気圧で液体のポリエチレングリコールとを10:1～1:10の重量比で含有することを特徴とする、(1)に記載の多剤混合型パック化粧品。

(3) 更に、無機増粘剤を含有することを特徴とする、(1)又は(2)に記載の多剤混

合型パック化粧料。

(4) 更に、(ポリ)グリセリン及び／又は25℃1気圧で液体のポリエチレングリコールと水とが保存時において実質的に混合していない形態であることを特徴とする、(1)～(3)何れかに記載の多剤混合型パック化粧料。

(5) エステティック用であることを特徴とする、(1)～(4)何れかに記載のパック用のペースト状組成物。

(6) 用時、アルギン酸及び／又はその水可溶性塩を含む組成物とカルシウムの塩を含む組成物と第3の組成物としての水性組成物を混合してなることを特徴とする、(1)～(5)何れかに記載の多剤混合型パック化粧料。

(7) 水性組成物が水である、(6)に記載のパック化粧料。

以下、本発明について、実施の形態を中心に更に詳細に説明を加える。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

【発明の実施の形態】

本発明の多剤混合型パック化粧料は、1)アルギン酸及び／又は水可溶性のその塩0.5～20重量%と2)(ポリ)グリセリン及び／又は25℃1気圧で液体のポリエチレングリコール10～80重量部、3)カルシウムの塩及び4)水を含むパック化粧料とするための多剤混合型パック化粧料であって、保存時の構成要素として、アルギン酸及び／又はその水可溶性塩を含む組成物とカルシウムの塩を含む組成物の2種の組成物を含有することを特徴とする。これらの構成要素である2種の組成物は保存状態においては、互いに混合しない状態で存在し、用時に混合する多剤混合型パック化粧料であることを特徴とする。この時、(ポリ)グリセリン及び／又は25℃1気圧で液体のポリエチレングリコール、言い換えれば液状の多価アルコールと水とは混合しない状態で存在することが好ましい。これは、液状の多価アルコールが水と混合することによって生じる混和熱を利用して、本発明のパック化粧料では冷感を抑制しているためであり、用時以前にこれらが混和していると十分な混和熱が得られず、冷感を抑制できない場合があるからである。又、経時の安定性及び均一なゲル被膜を形成する目的から、アルギン酸及び／又はその水可溶性塩とカルシウムの塩も用時以前は接触しない形態であることが好ましい。ここで、アルギン酸の水可溶性塩としてはアルギン酸のアルカリ金属塩が好ましく例示でき、中でもアルギン酸ナトリウムが特に好ましく例示できる。アルギン酸やその水可溶性塩は唯一種を含有することもできるし、二種以上を組み合わせて含有させることもできる。本発明の多剤混合型パック化粧料の使用時形態におけるアルギン酸やその水可溶性塩の好ましい含有量は、使用形態における、化粧料全量に対して、総量で、0.5～20重量%であり、より好ましくは1～20重量%であり、更に好ましくは、1.5～15重量%である。これは、この範囲において、パックに良好な被膜を形成するからである。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明の多剤混合型パック化粧料は、もう一つの必須成分として、(ポリ)グリセリン及び／又は25℃1気圧で液体のポリエチレングリコールを使用形態の化粧料全量に対して10～80重量%、より好ましくは20～80重量%、更に好ましくは、30～50重量%を、用時の形態において含有することを特徴とする。このうち、ポリグリセリンとしてはジグリセリン、トリグリセリン、テトラグリセリン、デカグリセリンなどが例示でき

、これの中ではジグリセリンが特に好ましい。かかる成分は、前記の含有量の範囲において、本発明の多剤混合型パック化粧品において、水と混合してパック料とする際に、水との混和熱を発生させて、パック化粧品に温感を付与させる作用を有する。又、かかる成分はパックを施す皮膚に潤いを与える作用も合わせて有する。前記成分において、 25°C 1気圧で液体のポリエチレングリコールとしては、平均分子量100～1500のポリエチレングリコールが好ましく例示でき、200～1000のポリエチレングリコールが更に好ましく例示できる。勿論これらは唯一種を用いることもできるし、二種以上を組み合わせることもできる。又、本発明の多剤混合型パック化粧品においては、かかるポリエチレングリコールのみを含有させることもできるし、これに（ポリ）グリセリンを組み合わせることもできる。好ましいものは、グリセリン乃至はジグリセリンと 25°C 1気圧で液体のポリエチレングリコールとを組み合わせる形態である。この様な場合において、グリセリン乃至はジグリセリンと 25°C 1気圧で液体のポリエチレングリコールとの好ましい重量混合比は、10：1～1：10であり、更に好ましくは、5：1～1：5である。特に好ましい形態は、グリセリン乃至はジグリセリンがグリセリンのみで構成される場合である。この様な混合比において、パック料を形成させた場合、心地よい感触が得られ、エステティックではディープリラクゼーションを提供することができる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明のパック料においては最終形態において、アルギン酸の水不溶性塩を形成させることが必要であり、この為には前記の如くの前記の多剤混合剤形の形態を取ることが好ましい。多剤混合剤形の形態としては、2剤混合タイプと3剤混合タイプの2つのタイプが特に好ましく例示できる。この様な多剤混合剤形の製剤構成と必須成分の構成との好ましい組み合わせ例を次に挙げる。

1) 組成物1（アルギン酸及び／又はその塩と（ポリ）グリセリン及び／又はポリエチレングリコールを含有）と組成物2（カルシウムの塩と水を含有）の組み合わせ

2) 組成物1（アルギン酸及び／又はその塩と水を含有）と組成物2（カルシウムの塩と（ポリ）グリセリン及び／又はエチレングリコールを含有）

3) 組成物1（アルギン酸及び／又はその塩と（ポリ）グリセリン及び／又はポリエチレングリコールを含有）と組成物2（カルシウム塩を含有）と組成物3（水を含有）

4) 組成物1（アルギン酸及び／又はその塩を含有）と組成物2（カルシウムの塩と（ポリ）グリセリン及び／又はポリエチレングリコールを含有）と組成物3（水を含有）

5) 組成物1（アルギン酸及び／又はその塩とカルシウムの塩を含有）と組成物2（（ポリ）グリセリン及び／又はポリエチレングリコールを含有）と組成物3（水を含有）

尚、アルギン酸の水不溶性塩としてはカルシウムの塩が好ましく、かかるカルシウム塩としては硫酸カルシウムや塩化カルシウムなどのカルシウムの塩が好ましい。かかる塩の含有量としては、最終形態において、0.001～30重量％が好ましく、硫酸カルシウムのみを使用する場合には1～30が好ましく、1～8重量％が更に好ましく、塩化カルシウムのみを使用する場合には、0.001～0.5重量％が好ましく、0.01～0.1重量％が更に好ましい。又、これらはアルギン酸に対して、硫酸カルシウムのみを使用する場合には1：1～1：5が好ましく、塩化カルシウムのみを使用する場合には1：0.001～1：0.1が好ましい。これら含有量やアルギン酸との比は、硫酸カルシウムと塩化カルシウムを混合して使用する場合には、混合比に従って按分すればよい。好ましい形態は硫酸カルシウムのみを用いる場合である。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 8 】

【発明の効果】

本発明によれば、使用性と使用感に優れた、エステティック用のパック化粧料を提供することができる。